

自動車アセスメントの結果から得られた衝突安全性能の向上について

自動車アセスメントに掲載されたデータを基に分析を行ったところ、自動車の衝突安全性能等は長期的に向上しています。

(1) 衝突安全装置の装備状況の推移

新車の安全装置の装備率は、表 1 に示すとおり過去 7 年間で急激に上昇しており、助手席エアバッグ、アンチロックブレーキシステム (A B S) の装備率も、9 割を超えました。

(表 1) 国産乗用車の安全装置の装備率 (標準装備・車種数ベース)

安全装置の種類		調査時点		装備率の上昇分
		平成 7 年 12 月	平成 14 年 12 月	
エアバッグ	運転席	33.8%	97.4%	63.6 ポイント
	助手席	6.8%	97.4%	90.6 ポイント
アンチロックブレーキシステム		15.4%	95.9%	80.5 ポイント

(2) フルラップ前面衝突安全性能の乗員傷害の推移

フルラップ前面衝突安全性能の変化の傾向を把握するため、年式別の乗員傷害値の平均の推移を調べたところ、表 2 および表 3 のとおり、乗員傷害値は全体的に改善傾向にあります。

(表 2) 頭部傷害値の改善の状況

年式	平成 6 年式	平成 14 年式	改善率
運転席(HIC)	643	377	41.4%
助手席(HIC)	796	430	46.0%

(表 3) 胸部傷害値の改善の状況

年式	平成 6 年式	平成 14 年式	改善率
運転席(胸 G)	54.3	45.1	16.9%
助手席(胸 G)	59.0	43.8	25.8%